

## 令和元年度第2回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和元年 11 月 21 日（木） 15：00～17：00
場所	第1委員会室
出席者	小磯 修二（一般社団法人地域研究工房代表理事）
	守山 英男（北海道石狩振興局地域創生部長）
	田邊 芳恵（学校法人鶴岡学園北海道文教大学副学長） ※代理出席
	切明 毅（学校法人滋慶学園事務局長）
	高橋 正樹（北洋銀行恵庭中央支店長）
	赤城 寛紀（北海道銀行恵庭支店長代理） ※代理出席
	大溝 宏（連合北海道恵庭地区連合会長）
	山谷 秀治（千歳公共職業安定所（ハローワーク所長））
	矢崎 哲夫（恵庭工業クラブ（サッポロビール株））
議題	（1）第1期恵庭市総合戦略の検証について
	（2）人口ビジョン2019について
	（3）第2期恵庭市総合戦略の策定について

発言者	内容
司会	<p>【次第1．開催あいさつ】</p> <p>企画振興部次長 大西より開催のあいさつ。</p>
市長	<p>【次第2．市長あいさつ】</p> <p>委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。加えて市政各般にわたり、ご支援、ご協力いただいていることにつきまして感謝申し上げます。</p> <p>恵庭市では平成27年に総合戦略を策定し、それに沿った施策を進めておりまして、今年度が最終年となります。今年の9月末、人口が7万人を達成し、現在も増加が続いておりますが、総合戦略に基づく施策を積み重ねてきたことが要因の一つではないかと感じております。創生懇談会で皆様にご意見をいただいた結果が活かされていると感謝しております。</p> <p>来年は市制施行50周年という大きな節目を迎えることから、記念式典等の事業を計画しております。50周年を契機に、市民の方々とともに恵庭のまちの歩みを振り返り、これからの恵庭のまちを展望していけるような一年にしたいと考えています。</p> <p>また、先日、記者会見を行いました。北海道と協同して、令和4年度全</p>

	<p>国都市緑化フェアの誘致を目指しております。こうしたことを次期総合戦略にしっかりと位置付け、市民の方々や議員の方々にもご理解いただきながら進めて参りたいと考えております。恵庭市は地理的な条件が良く、まだまだ発展する可能性の高いまちだと考えておりますので、委員の皆様のそれぞれのお立場からのご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>配布資料の確認。</p> <p>千歳民報社の尾野様、恵庭商工会議所青年部の安保様、佐藤様の欠席と北海道文教大学の橋内様の代理で田邊様、北海道銀行の高島様の代理で赤城様の出席、石狩振興局の渡邊様が異動のため、後任の守山様の出席を伝える。</p>
座長	<p>以下、座長による進行。</p> <p>第2期の総合戦略の策定に向けて、第1期の検証、人口ビジョン2019、第2期総合戦略の策定について3つのテーマで議論したいと思います。第1期恵庭市総合戦略の検証について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>【次第3. 議事】</b></p> <p>(1) 第1期恵庭市総合戦略の検証について</p>
座長	<p>検証作業として、最近の傾向ではKPIという指標を設定していますが、政策の目標が本当に達成されたかの判断はとても難しいものです。人口は増加していて、他の市町村から見ると羨ましい状況ですが、課題もあると思います。市長は総括的にどのような印象を持っていますか。</p>
市長	<p>総合計画とは別に総合戦略として、まちづくりの施策を打ち出したことは非常に有効だったと感じています。職員は総合戦略に沿って施策を組み立てることができたので、方向性が明確になったのではないかと思います。財政的に厳しい状況が続きますが、第2期を迎え、より恵庭の魅力を高めるために事業を一つ一つ精査しながら取組みを進めていく必要があると感じています。</p>
座長	<p>10年間の長期の総合計画に対し、5年間の総合戦略があり、同じことで2度手間になってしまう恐れがありますが、恵庭市は独自の政策として戦略的に地方創生の取組みを進めていると感じます。ぜひ、次期の総合戦略、政策づくりにも活かしていただければと思います。</p> <p>ご質問やご意見はございますか。</p>
G委員	<p>転勤で様々な地域の状況を見てきましたが、人口減少、少子化がどこの地域でも課題になっており、札幌市でも高齢化が進んでいます。その中で、恵庭・千歳地区は北海道でもまれな人口増加傾向にあり、総合戦略の最終年というタイミングで人口7万人達成ということは全国的にも発信でき</p>

	<p>るのではないかと思います。ただ、少子化が進んでいることは事実ですので、これから学校が減ったり、人手不足の問題が次々と出てくると思います。</p> <p>労働問題では、外国人の方が増えていますので、どのように取り込んでいくかが課題になってくると思います。</p>
座長	他にご意見がなければ、事務局から次の議題の説明をお願いします。
事務局	<p><b>【次第3. 議事】</b></p> <p>(2) 人口ビジョン2019について</p>
座長	人口が社会増となった最大の要因について、どのように考えていますか。
事務局	宅地造成が進んだことが大きいと考えています。恵庭市は立地条件に恵まれており、土地も安価なことから、戸建てを望む層のニーズにマッチしたのではないかと考えています。
市長	比較的若い家族層や独身の方が増えているようです。新千歳空港が活発ですが、千歳ではなく恵庭に住んで電車で通う方が多いようで、恵庭駅周辺の集合住宅の人気が高くなっています。加えて、札幌市の土地やマンションが高騰しているため、若い方は土地が比較的安価で交通の便がいい恵庭市を選んでくださっているようです。市内の中古住宅も非常に好評だと聞いています。アンケートの結果では94%の方が「住みよい」と感じてくださっているようです。
座長	人口減少時代に恵庭市の人口が増加していることをどのように政策に結び付けていくかは難しい課題だと思います。若い方が地方から首都圏に吸い上げられていたのが、地方に回帰するような動きがありますが、今の恵庭の動きは北海道の元気な地域の居住地としての役割を恵庭が担っているということですね。ただ単に恵庭市は人口が増加しているから良しとして政策を議論するのではなく、経済や生活など、様々なことに影響をおよぼす人口減少問題をしっかりと課題として捉えて臨むことが大事だと思います。北海道は人口減少が始まってから20年以上経過しており、経済の需要が縮減していきます。その中で、唯一、北海道経済の成長していく部分は、観光消費であり、外部からの消費を恵庭に落とす戦略が重要になってきます。総合戦略の中に産業連関表の活用がありますので、観光消費の経済波及について分析を進め、恵庭が生き抜いていくための議論をする必要があると思います。
副座長	道庁でも人口ビジョンに外国人の項目を追加しており、今後、在留資格制度の改正によって増加していくと推計しています。恵庭市の将来推計では外国人材についてどのように計算していますか。

事務局	人口推計は社会保障・人口問題研究所のコーホート推計によるデータを利用しているため、外国人材の推計は盛り込めていない状況です。
座長	政策的な要因が大きく、推計という考え方にはなじみませんね。ただ、様々な面でこれから影響をもたらすと思います。
副座長	工業団地や農業といった外国人材の就労先が多くあるので、恵庭市にも外国人がたくさん流入してくると思います。今後、制度改正があることから増加すると予測していますが、恵庭市では共生に向けた取組みを進めているようなので、参考にさせていただければと考えています。
市長	先ほど座長からのお話にありましたが、まちの経済をどのように支えていくか考えなければなりません。恵庭市はもともと自衛官等の公務員が多いまちで、その税収で市が潤い、経済が成立していました。その後、工業の発展に伴って商業も発展してきましたが、地域経済に観光が影響を及ぼすことはありませんでした。ですから、非常に伸びしろのある分野だと考えており、観光で立ち寄っていただき、飲食や宿泊等で消費していただくための戦略を検討していかなければならないと感じています。
座長	近年、関係人口という言葉が盛んに言われています。住民票を持っている方だけを相手に施策を考えがちですが、観光等で外から来る方が経済消費することや、様々な機能を恵庭が持つことによってビジネスが成立することを視野に入れると新しい発想が生まれると思います。 外国人材や外国籍市民の問題がこれから非常に重要になってくると思いますが、北海道の地方都市では農業や水産業を支えてきたのがまさに外国人の労働者です。北海道としては経験のある分野ですから、検証のヒントもあると思うので、これからしっかりと議論していただければと思います。 他にご意見がなければ次の議題の説明をお願いします。
事務局	<b>【次第3. 議事】</b> (3) 第2期恵庭市総合戦略の策定について
座長	総合戦略の策定に向けた議論をする前段で、恵庭の特性を活かした政策をどのような方向性で検討するかを議題提起として受け止めました。順番に委員の皆様から、ご意見やご質問があれば伺います。
D委員	恵庭市の地理的な優位性は非常に魅力的で、居住地としてだけでなく、工場などの事業者にとっても同じだと思います。観光の分野でも同じことが言えると思いますので、観光消費の仕組みづくりが重要になってくると思います。倶知安に赴任していたことがあります。観光で来た外国人が起業して雇用が創出される循環があり、日本人が雇用されている状況も見られました。恵庭市でも観光の分野で経済が循環する環境ができたと思

	います。
座長	非常に重要なことですね。ポテンシャルの高いまちだと思いますので、伸びしろのある分野だと思います。
E 委員	7月に恵庭に着任する以前は留萌市で勤務しておりました。留萌市は恵庭市とは対照的に1年間で千人程、人口が減少しており、外国人材の活躍なしに企業の運営が成り立たない状況でした。恵庭市は教育機関も充実していることから就学年齢の人口も留まっていることに加えて、立地も新千歳空港と札幌の中間で恵まれていて、様々な面で優位性が高いと感じています。観光の分野でも恵庭市ならではのものを打ち出すことができれば発展していくと思います。今の時代、インターネットに接続していれば様々なことができるので、サテライトオフィスやデータセンターなど、企業がリスク分散も考えて第2の地盤として進出する可能性もあると思います。
F 委員	<p>小学校の教員をしていて感じるのですが、電子黒板が導入されたり、高学年の生徒の半数以上がスマートフォンを持っていたり、電子機器があることが当たり前になってきています。それぞれにメリットとデメリットがあると思いますので、うまく活用できたらと感じています。</p> <p>若者が大都市に流出してしまう問題については、要因として若者にとって大都市に魅力があることが挙げられると思うので、より恵庭市の魅力を高め、それを教育の現場で伝えることで子どもたちに恵庭を好きになってもらうことが、地元からの流出を抑えることにつながるのではないかと考えていました。</p>
B 委員	<p>首都圏では通勤時間が1時間を超えることが一般的なので、札幌市と恵庭市の距離は全く問題ではありませんが、北海道の人の感覚ではまだ少し距離があるという認識だと思います。北広島市にはボールパークができるので、JRの沿線で周辺に楽しめる場所ができると集客につながるのではないかと思います。大学としても全国から学生を集めたいと考えていますので、全国的に恵庭の知名度を上げる目玉があるといいのではないかと感じています。</p> <p>外国人の増加については、大学としては留学生の教育や国際感覚を持った人材の育成に貢献できると考えています。高齢者の問題でも医療系の学部もあることから健康寿命の延伸に貢献できるのではと思いました。</p>
C 委員	人口減少問題についてですが、18歳人口は2030年以降100万人を、生産人口は7000万人を切ると推計されています。産業は変化しなければならず、高等教育機関としてもどのような人材を育成していく必要があるのか考えなくてはなりません。遠い未来の話のように感じますが、今の学生がリーダーシップをとる時代のことになるので、学生には課題に取り組むと

	<p>きに SDG s のどの目標を目指したもののなのか意識させるようにしています。</p> <p>総合戦略の中に若者の定着促進がありますが、どこでも起業して世界を視野に活躍できる時代なのでリサーチビジネスパークのシェアオフィスと連携して「起業家を育成しているまち」として発信できれば、産業の創出もできるのではないかと思います。居住地として人口が増加している側面は維持しつつ、「働きたくなるまち」として発信するためにはどのようにしたらいいのかを行政、企業の皆様と考えていきたいと改めて感じました。</p>
G 委員	<p>ハローワークの視点で企業の問題について触れますと、どの企業でも人手不足の問題があるようです。人手不足の要因に人口減少、高齢化があり、解決策として外国人材や AI の活用がありますが、もし苫小牧でカジノが建設されることになると、さらに地域の人材が不足すると危惧しています。</p> <p>ハローワークは外国人材を集計する立場にありますので、企業で働いている外国人材の人数は把握しておりますが、実態が把握しきれていない状況です。恵庭市では外国人材にイベントへの参加を通して地域に溶け込んでいただく取組みを行っており、相互理解に繋がっていますので、ぜひ続けていただければと思います。外国人材、技能実習生をめぐってはネガティブな報道も多くありますが、ぜひ一生懸命に働いている方、受け入れている企業について取り上げていただければと思っています。</p>
A 委員	<p>4 月に恵庭市民になったばかりですが、エアポートが停車することや空港と札幌に近いことから非常に立地条件に恵まれていると感じています。まちを歩いていて、花のまちだと実感したので追及していくと仕組みができるのではないかと思います。</p> <p>観光客については、工場見学でも最近韓国の方が減少している状況ですが、海外に向けても発信していくことが入込数の増加につながると思います。外国の方が定住するとなると、言語の問題が出てきますが、多種多様な方々に向けてうまく取組みを進めなければ混乱が生じてしまうのではと危惧しています。</p>
副座長	<p>道庁でも総合戦略の見直しを図っており、新たな視点として SDG s や Society5.0、関係人口の拡大を加えて作業を進めているところです。自治体だけでは難しい面があると思いますが、企業と連携して情報を活用できるような施策の検討を進めてはどうかと思います。</p> <p>人口の問題については、恵庭市は社会増となっていますが、数年後には札幌市も含めて人口減になっていくと推計しています。要因として出生率の低下がありますが、それに加えて若年層が毎年 3 千人から 4 千人程首都圏に流出していることがあげられます。流出要因の詳細な分析はできていま</p>

	<p>せんが、北海道の景気問題が要因の一つなのではないかと考えています。石狩振興局でも恵庭市と連携して若者定着に向けて取組みを進めています。男子学生だけでなく、女性も高学歴化が進み、よりよい就職先を求める傾向にあるので、恵庭市の企業の就業環境を把握することも若者に地元企業に就職していただくには必要なかと考えています。</p>
座長	<p>ありがとうございました。副座長からもお話がありましたが、道庁での総合戦略の検証に私も加わっています。恵庭に関わりのある部分として、日本の地方創生における問題は、東京への一極集中、北海道の中では札幌圏への一極集中があげられます。若者だけではなく、高齢者になって最終的に札幌に移動するという構造をどのように地方創生という政策の中で受け止めていくのかが議論のポイントになっています。北海道における社会移動の大きな要因は、進学時や就職時に若者が首都圏へ移動するものが多数を占めており、これまで女性の大きな動きはありませんでした。ところが、ここ数年で道内の若い女性が首都圏に就職する形での移動が増加しました。人口問題を考えるうえで非常に大きな問題で、出生率が低い首都圏に若い女性が集まることによる負のスパイラルが日本の人口減少問題の大きな構造的要因だとされています。どこの地域でも人手不足が課題になっており、人の奪い合いが起きていますが、首都圏の女性への採用条件に立ち向かうには非常に厳しい状況です。首都圏に行かなくても地元でしっかりと就労することができる状況をどのように作り上げていくかが課題になってくると思います。</p> <p>皆さんのお話をお聞きして、恵庭市の知名度を向上させることが重要だと改めて感じており、恵庭というブランド力を高めていくために、恵庭に関わる人々、企業、行政が連携して個別の取組みを積み上げていく総合力が大切だと思います。</p> <p>外国人の問題については、人口減少時代にどのように地域として受け止めていくかが難しい点だと思います。単に労働者として捉えるのではなく、生活者として共生していくために、大学や企業と幅広く議論を進めていく必要があると感じました。</p> <p>私もフリーランスで活動していますが、近年、労働の形態が変化しており、事務所を持たずにシェアオフィスなどで仕事をする人が増えています。恵庭市は札幌まで30分かかる距離ですから、そういった方の拠点としての役割を担えると思います。情報通信技術が進化した時代ですから、新しい社会人の活動に対応していくためのオフィスの在り方を考えると、新しい地域戦略も浮かび上がってくるのではないかと今日の皆さんのお話を伺って感じました。</p>

	市長からご意見をいただきたいと思います。
市長	<p>本州では北海道よりも高度なスキルを持った人材を確保するのに非常に苦労していると聞いており、そういった理由から恵庭で操業している企業もあるようです。恵庭市では工業団地を整備して企業を誘致していますが、問題は人材の確保です。企業の求める人材とマッチングするよう、道庁や大学等とも連携していく必要があると感じています。</p> <p>今回の創生懇談会では、皆様方からいただいた意見を整理して第2期恵庭市総合戦略の素案をお示ししたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
座長	<p>恵庭市の地方創生は、恵庭の持ち味を活かして取り組んでいるところが非常にいいところだと思っています。</p> <p>皆さんから特にご意見がなければ、事務局から連絡事項をお願いします。</p>
事務局	<b>【次第4.その他】</b>
座長	それでは第2回恵庭創生懇談会を終了します。ありがとうございました。
一同	どうもありがとうございました。